

医療介護情報を事前登録「北まるnet」

市内救急隊あすから活用

高齢者ら対象搬送 時間短縮に期待

事前に登録された高齢者や要介護者の情報を救急搬送時に活用するシステム「北まるnet救急医療情報」が、10月1日から北見市内の全消防救急隊で導入される。救急隊員が傷病者の情報をスムーズに確認でき、搬送時間の短縮が期待できる。システムを運用する北見市医療福祉情報連携協議会は「万が一に備えて登録を」と呼び掛ける。

システムは、個人の医療介護情報を関係機関が共有する情報通信システム「北まるnet」を活用したもので、対象は市内在住の65歳以上の高齢者と要支援・

要介護認定者。本人の住所や緊急連絡先のほか、かかりつけ医、利用している訪問看護ステーションなどを登録できる。救急隊員は搬送時に業務用スマートフォン

(本田みなみ)

ンからシステムにアクセス。搬送者の名前や住所を入力すると、登録済みの情報が確認できる仕組みだ。

北見地区消防組合によると、2019年に搬送された5484人のうち、65歳以上は全体の65.4%を占める。傷病者の情報は、隊員が現場到着後に本人やその家族、施設職員などから得るが、必要な資料を探すのに時間が取られる例もあるという。同組合救急企画課は「登録された傷病者なら現場に到着する前から情報を確認でき、適切な治療を迅速に受けることにつながる」と利点を説明する。

北見市や北見医師会などでつくる同協議会は16年度、市内の介護施設を対象にシステムの実証実験を行い、病院への搬送時間が2分30秒ほど短縮する効果を



10月からのシステム導入を前に、スマートフォンでテスト用の画面にアクセスする救急隊員

確認した。今後、運用状況を踏まえながら、投葉歴や救命処置に関する本人の意向など、新たな登録項目も検討する方針だ。

登録は市内7カ所の地域包括支援センターや居宅介護支援事業所などで行える。問い合わせは各支援センターか市介護福祉課 ☎0157・25・1144